



地域と医療のコラボレーション

第29号
September
2014

ハモニー

Harmony

発行/ 医療法人社団協友会 東大宮総合病院
編集/ 広報委員会
〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮5-18
TEL.048-684-7111 FAX.048-686-3614
<http://www.higashiomiya.or.jp/>

特集

新病院に向けた看護部の取り組み

看護部長

林勝枝

今

年度より看護部長となり、新病院に向け慌ただしい毎日を過ごしております。

早いもので、東大宮総合病院は移転まで残すところ10ヶ月となりました。平成27年7月には、20床の増床により、病床数337床となり、今までの急性期対応型に進化した新病院がオープンします。新病院では地域の要望を取り入れ、これまでなかったICU病床(8床)、緩和ケア病棟(22床)が新規に立ち上がります。そして、救急室は初療室を4室、安静用ベッドを9床設置し、今までの救急受入れ体制を整えます。さらにはがん診療指定病院として、がんサロンの開設、放射線治療装置(リニアック)の導入など、がん治療の拡大も計画されています。

現

在、看護部では新病院に向け、より質の高い看護を提供するべく、新しい取り組みを実施しています。その中でも、7つの分野に焦点をあてた「改善・強化プロジェクトチーム」を発足しました。まず、「接遇強化」「看護サービスマニュアル」の2チームを立ち上げ、患者さまに心地よい看護を受けて頂くための準備を整えます。次に、安心安全な医療を提供するために「検査説明強化」「感染対策強化」「注射内服管理」「褥瘡対策」の4チームが、細部までの見直しと改善を図ります。そして、新病院を支える人材育成にも力を入れるために「新人教育」のチームの貢献も必須と考えております。

新

病院では医療はもちろん、アメニティーも充実します。それ以上に「看護の質」にこだわった看護

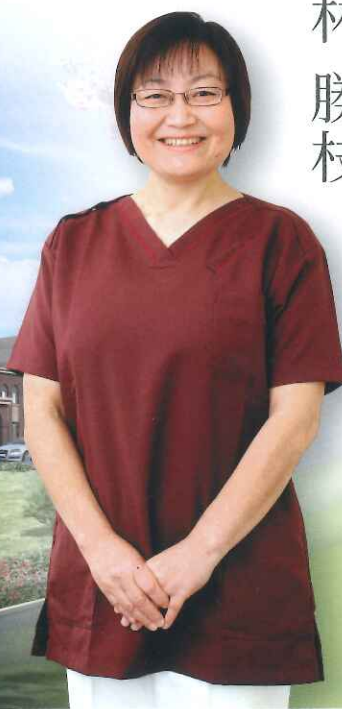
ICU・HCU
急性期対応型



緩和ケア病棟

リニアック導入

部を築き上げることが、私に科せられた現在の責務と感じております。今後とも、ますますのご支援とご鞭撻の程をお願いし、挨拶とさせていただきます。今後とも宜しくお願ひします。



診療科だより

放射線科



医長
井上 秀昭

当院の放射線科は、医師1名、診療放射線技師18名、看護師1名、クラーク1名により構成されており、毎月平均でCTを1250件、MRIを380件、また人間ドック、さいたま市住民健診の胸部・胃部X線およびマンモグラフィ等の画像を撮影し、それに基づいた診断を行っています。また低侵襲の治療法IVRも行っています。

※CTおよびMRI

CTとは、X線とコンピュータを使用し、輪切りの画像を連続して写すことで身体（頭部・躯幹部・四肢）の内部構造を精密に検査する手段です。当院のCTでは、迅速な検査の施行と三次元画像の作成が可能です。

MRIとは、強い磁石とFMラジオに用いられる

電波を使って身体の中の様子を画像にする検査です。この検査は、電波を使用しているため、放射線被ばくの心配はありません。また、脳、腹部、下肢などの血管を非侵襲的（からだを傷つけない）に画像にするMR Angiography（MRアンギオグラフィ）を得ることができます。



CTによる三次元画像



MR Angiography

※IVR

IVRとはインターベンショナルラジオロジー（Interventional Radiology）の略です。X線透視や超音波像、CTを見ながら体内に細い（カテーテルや針）を入れて病気を治す治療法です。当院では化学療法のための中心静脈ポット留置や肝動脈動注塞栓術、喀血に対する気管支動脈塞栓術、腹部臓器損傷に対する塞栓止血術などを施行している他、非血管系ではCTガイド下に肺生検や、体液の一部を体外へ誘導して排出する膿瘍ドレナージを施行しております。

われわれ放射線科では患者さまに誠実で妥協のない画像提供を理念とし、患者さまにとって優しい検査・診断を心がけております。



当院のリスクマネジメント管理

医療安全管理室 科長 染谷滋子

当院の医療安全活動は、職員の個人レベルでの事故防止対策と病院全体の組織的な事故防止対策の二つの対策を推し進めることによって、医療事故を防ぎ、患者さまが安心安全な医療を受けられる環境を整えることを目標としています。

当院では、医療安全対策委員会の下に「リスクマネージャー部会」があり、様々な安全活動を行っております。その中のKYT活動についてご紹介します。

KYTとはK=危険 Y=予知 T=トレーニングの頭文字の略称です。危険予知訓練は、起きてしまっている危険に気づくのではなく、まだ起きていない事故の可能性を察知し事前に適切な対処を行う能力を身につける訓練です。このKYTを行うことで危険回避の「気づきの感性」が高まると

されています。

各部署のリスクマネージャーは、院内ラウンドを行い危険と感



じる場面を写真撮影し、リスクマネージャー部会で発表します。そこで起こり得る事故を予測し、多職種で対策を立て実施しています。このように、患者さまに安全な医療を提供するためには、現場の職員の活動が重要です。起こる前の事故を防ぐことで、より安全なリスク管理を目指しています。

褥瘡発生の減少を目指して

皮膚・排泄ケア認定看護師 主任 藤屋聡子

2002年より褥瘡対策が国の政策として推進されるようになってから、既に12年が経過しました。当院でも褥瘡対策には重点が置かれ、褥瘡発生の減少を目指して病院全体で取り組みを行っています。医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士など様々な職種で構成される褥瘡対策チームは各職種がその専門性を生かして協力し、チーム活動は年々活発化しています。日々のベッドサイド訪問、褥瘡回診などの治療だけでなく、褥瘡対策に必要な体圧分散マットレス



やクッション等の予防用具も定期的な見直しによって最新機種を整備を図っています。

人材育成にも力を入れ、昨年度の院内研修では看護師、理学療法士、栄養士などが多数参加し、コース修了の認定証を受けました。今年度もさらに充実したコースの研修がスタートしています。また、院内だけでなく介護施設や在宅での褥瘡対策に役立てるよう、訪問看護ステーションと連携し、訪問看護師への支援も行っています。

がんリハビリテーションチーム

リハビリテーション科 係長 鈴木香織

日本は高齢化とともにがんにかかる方が年々増える一方、早期発見・早期治療によってがんを抱えながら生活する方も増えています。がんの進行や治療の過程で筋力が低下して歩くこと、食事・トイレ・着替えなどの身の回り動作を行うことなどが大変になってしまふことがあります。

当院のリハビリ科ではがん患者さまに対するリハビリを以前より実施していましたが、今年度より“がんリハビリチーム”を立ち上げ、さらなる強化に取り組んでおります。チーム活動としてはリハビリ科医師・看護師・理学療法士・作業療法士で週に1度、リハビリ患者さまの回診を行い、リハビリ目標の確認をしています。

がんのリハビリは病気・治療の時期によってリハビリ内容

は変わっていきます。手術や治療の前に身体機能低下を予防的にかかる時期、機能回復を図っていく時期、運動能力や身の回り動作の維持や向上を図りながら、楽に生活できるような動

作のコツを練習していく時期、患者さまやご家族の希望を尊重しながらかかわっていく時期などがあります。入院中および退院後の生活でその患者さまの望む生活を送ることができるよう、リハビリ科ではこれからも関わっていきます。



新病院プロジェクト

建築工事が始まりました！

5月に免震装置の設置を終え、地下からの立ち上がり部分の工事を進め、6月より地上の躯体工事が始まりました。建築面積は5,400㎡と広大で、6ブロックに分けて順番に工事が進められています。現在は2階部分までできました。



新病院プロジェクト特設HP



健康講座 当院における地域への保健活動

当院の「健康講座」をご存知でしょうか？地域住民のみなさまの健康維持、増進と病気の知識普及を図ることを目的に、平成23年から大砂土東地区自治会連合会、社会福祉協議会との共催として開始され、年4回定期開催しております。さらに、平成26年7月からは土呂町自治会との共催として年4回の定期開催が始まります。みなさまの熱心なご参加のおかげで、平成26年で4年目迎えました。当院の医師を中心とした各分野の専門家が、身近な医療をテーマにわかりやすく解説し、みなさまの悩みや疑問にお答え致します。当院職員と地域のみなさまとの交流の場でもあります。ご来場、心からお待ち申し上げます。

保健活動委員会 中村哲子

11月開催の健康講座

(予定)



日時：平成26年11月27日(木)
午後2:30～4:30

場所：東大宮コミュニティーセンター

演題
1

虫歯や歯周病で失われた歯の治療
～義歯、ブリッジ、インプラントについて～

演題
2

がんにならない
食事・生活・健康法

参加ご希望の方は電話にてお申しください。
(対応時間：月～金曜日 9時～17時)

専用ダイヤル：070-5072-3247

当院 数字アラカルト

- 外来患者数…………… 697.2人/日
- 入院患者数…………… 279.2人/日
- 在院日数…………… 16.4日
- ベッド稼働率…………… 88.4%
- 救急件数(月平均)…………… 396件/月
- 手術件数(全麻・腰麻)…………… 103件/月
- 心臓カテーテル検査件数…………… 17件/月
- 内視鏡件数…………… 572件/月

平成26年4～7月平均



編集後記

お盆明けの8月17日までに、さいたま市の最高気温が35度以上の猛暑日は12日、30度以上の真夏日は41日もあったようです。

9月とはいえ、残暑で体調管理には気を抜けません。体調など崩さぬようご注意ください。



医療法人社団協友会

東大宮総合病院

〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮5-18
TEL.048-684-7111 FAX.048-686-3614

東大宮総合病院

検索



JR宇都宮線「東大宮」駅下車 東口より徒歩3分